

◇各教科等の授業改善に向けた具体的な方策

【技術】

<p>■生徒の状況</p>	<p>(1) 1学年 注意するまでは私語が多い、注意された後は素直に集中して聞ける。説明や指示を聞いて理解することが難しい生徒がいる。作業への取組は、全体的に熱心である。</p> <p>(2) 2学年 説明や指示を聞いて理解することが難しい生徒がいる。わからないとき考えず、すぐ聞こうとする生徒がいる。作業への取組は、全体的に熱心である。</p> <p>(3) 3学年 進路に向けて3年生の自覚をもち、授業へ真剣に取り組む意欲を感じる。いる。デザインの段階ではいいが、実際の作品で切断、切削がうまくできず作品完成に時間がかかる生徒がいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>(1) 説明や指示を聞いて理解することが難しい生徒がいる。質問ができる生徒はいいが、巡回や作品の点検をするまで聞けない生徒がいる。</p> <p>(2) 日常生活の中での作るような体験が乏しく全て最初から取り組まねばならない難しさがある。</p> <p>(3) 将来の実生活に結びつく具体的な学習を通して、実体験を増やしていく工夫をする。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>1 基礎学力の定着</p> <p>(1) 距離をとりながらも、となり同士お互い学び教え合いながら、図や画像などを取り入れ、視覚的な面から興味関心を引き出させる。</p> <p>(2) 苦手な生徒には昼休みや放課後を利用して基礎からていねいに指導する。また、得意な生徒には積極的に戸の展覧会を目指して作品に取り組ませる。</p> <p>(3) 限られた時間で日常生活に生かす事のできる学習活動や実習を行う。基礎的技量を身に付け、さらに創意工夫することで考える力、オリジナリティを育て、表現力を高めさせる。</p> <p>2 1を支える家庭学習の推進</p> <p>(1) 実際の生活の中で、使える物を作ってみる。</p> <p>3 授業における思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>(1) 距離をとりながらも、となり同士お互い教え合い協力しながら課題に取り組めるように個別に適切な支援を行う。</p> <p>4 3を自ら伸ばしていくための主体性の育成</p> <p>(1) さまざまな見本、作品例から、自らの作品を評価し、よりよく仕上げていけるにしていく。</p> <p>5 ICT機器を活用した授業実践例</p> <p>(1) タブレット端末や書画カメラを用いて、良い作業の様子、他の人の作品を見せ合う。小さい電子部品を拡大してみせる等理解を深める。</p> <p>(2) デジタル教科書を活用して、課題を素早く、よりわかりやすく提示する。</p> <p>6 小中一貫</p> <p>(1) 図画工作の図工分野で中学のものづくりとつながるものでお互いの発表をし合う。</p> <p>(2) プログラミング学習を小学校の学習を生かし、情報の学習におけるプログラミングのフローチャート、双方向などの指導計画を検討する。</p>